

【パリ＝野村悦芳】四

十代まで名古屋を拠点に活動してきた日本画家の平松礼二さん(まこと)＝神奈川県鎌倉市在住＝の展覧会が十三日、印象派の巨匠モネにゆかりのあるフランス北部のシヴェルニール印象派美術館で開幕する。フランスで日本画家の大規模な展覧会は異例。印象派と日本画の深いつながりを再認識する場ともなり、平松さんは「両国に共通する美への探求心を感じ取ってほし



平松礼二さん＝野村悦芳撮影

印象派と響き合う美

い」と期待している。

み出してきた。

展覧会は「平松礼二、十九世紀後半、フランスに入った浮世絵などが「シヴェルニール」と題し、平松作品に魅了された美術館関係者が企画した。仏北部ノルマンディー地方で開かれていた印象派フェスティバルのメイン行事に位置付けられている。

平松さんは一九九四年にパリで、モネの代表作「睡蓮」を見て、日本画や浮世絵の影響が色濃く

モネの美の世界に引き込まれた。以来、モネが住み、睡蓮のモチーフとした池があるシヴェルニールなどを巡り歩き、印象派をテーマにした作品を生

「共通する探求心、感じ取って」

シヴェルニール印象派美術館に展示される平松さんの「シヴェルニール・モネの池・風音」

松の作品に共通点があることに驚かされた。展覧会への期待を語った。

屏風「シヴェルニール・モネの池・風音」など約三十点を展示。十月末まで。

平松さんは五歳で東京都から名古屋市北区に移り住んだ。愛知県立旭丘高校、愛知大を卒業。四十代後半まで名古屋を拠点に創作を続けた。二〇〇四年に中日文化賞を受賞している。

日本画・平松さん 仏で展覧会

